

「形原駅前通り」

(形原町西根崎)

形原町は袋川流域の高台に発展した町で、袋川沿いの名鉄形原駅前通りに西部市民センター(旧形原町役場)、小・中学校、銀行などの主要機能が集まっています。

江戸時代までは農漁村でしたが、明治時代以降に港湾を整備し漁業・海運が発展、併せて漁具のロープ・網などの産業が興きました。

昭和11年、三河鉄道(現名鉄蒲郡線)が開通。これにより、人・物・お金の動きが加速され、町は一層発展しました。中でも、人の動きは鉄道に寄与するところが大きく、現在でも、形原町や西浦町の多くの高校生が、名鉄蒲郡線を使って三河各地の学校へ通っています。

地域の将来を担う子どもたちが東三河と西三河を相互に行き来することは、両地域の経済や文化の交流などに深く影響を及ぼすため、鉄道は目に見える以上に地域にとって大きな役割を担っていると言えます。

この絵は、横長になって収まらない駅の向かい側を割愛し、内容を密にするため、視点を左の駅舎は右、右の踏切は左にと大きく移して描きました。



現在の景色



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野 幹 義

「長崎の離島の思い出・カワラナデシコ」

花屋の店先に並んだ華やかな花、家々の庭先やベランダを飾る花、野山に咲く可憐な野草、どの花も皆きれいですね。ではあなたにとって思い出の花は何でしょうか。花との出逢いの小さなドラマがその花を強く印象付け、思い入れのある一輪になるのではないのでしょうか。

31年前の大学4年の夏休み。「過疎と過密」をテーマに長崎の平戸の北にある離島、人口2,000人未満の的山大島へ一週間野外調査に訪れました。生まれて初めてみた、歯抜けのように廃屋の並ぶ町並みには、不気味な静けさが漂っていました。そんな島の中央・山頂部にある、猫の額のような段々畑の水田で、一人で野良仕事をしているお婆さんに話を伺いました。「こんな山の上の田んぼでも、御先祖様のお陰で湧き水が枯れたことがない。一杯どうぞ。」と小さなちいさな泉から、縁の欠けた茶碗に汲んでくれました。その泉の脇に一輪だけ、ひっそりと咲いていたのがカワラナデシコでした。淡い花色と、花びらの先が細かく分かれた繊細な花姿に、お婆さんの素朴な感謝の言葉が重なりました。

湧き水は冷たく、夏の暑さに渴いた喉を潤してくれました。よく見ると小さな泉には、私の大好きな赤腹・イモリが一匹泳いでいました。



目次 Contents

指定管理者が決まりました	3
鹿島保育園民営化移管先が決定	4
なかよく楽しく安全に 遊具で遊ぼう	5
下水道使用料が変わります	6
知っていますか? 成年後見制度	7
学校体育施設を開放します	8
スポーツ少年団の団員募集	9
屋外焼却はやめましょう! ねこの飼い方	10
元気な地域活動を紹介し ます ニートについて知ろう	11
MYスクール・図書館だより	12
まちの達人・読む水族館	13
遊びにおいでよ児童館へ	14
健康カレンダー	15
市民相談	16
外国人のための1日相談会	17
お知らせ	18-27
クイズまちがいさがし	28
ふれあい宅配便	29
こどもミュージアム	30
消防団観閲式	30